

歴史公園

き
く

ち

じ
よ
う

東アジアを見つめた
古代日本「鞠智城」

国営公園化を目指して——

鞠智城



熊本県

鞠智城は、古代の国土防衛のための拠点



▲ 7世紀後半の東アジア

の敗戦により、大和朝廷は唐・新羅の侵攻に備えるため、北部九州から瀬戸内海沿岸、近畿地方にかけての各地に山城を築き、防衛力強化を図りました。これを古代山城と呼び、鞠智城はその中のひとつです。

鞠智城が築かれた年代は記録に残っていませんが、国の歴史書である『続日本紀』に「大野城、基肄城、鞠智城を修理させた」との記述があることから、両城と同じ665年頃に築かれたのではないかと推測されています。

その後、次第に軍事施設としての役割は薄れ、役割的な施設に変化しながらも、約200年は存続したものと考えられます。



鞠智城は、7世紀の後半に、現在の熊本県の北部(山鹿市、菊池市)に築かれた山城です。

その頃、日本を治めていた大和朝廷は、朝鮮半島の百済と友好関係にあり、その百済が唐・新羅の連合軍に滅ぼされると、大和朝廷は復興のための援軍を朝鮮半島に送りました。しかし663年、白村江の戦いに敗れ、亡命を望んだ百済の人々を伴って帰国します。

▼ 歴史書に見られる鞠智城に関連する記録

- 663年 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れる「日本書紀」
唐・新羅の日本への侵攻が予想される
- 664年 対馬、志岐、筑紫に防人と烽を置き、筑紫に大堤を築く
水城と名付ける「日本書紀」
- 665年 亡命百済の高官 徳礼福留らを筑紫に遣わし、大野城、基肄城を築く「日本書紀」
- 698年 大宰府に命じて、大野、基肄、鞠智の3つの城を修理させる「続日本紀」
- 699年 三野、福積の2つの城を修理する「続日本紀」
- 858年 菊池城院の武器庫の鼓がひとりてに鳴った(2月、6月)
不動倉十一棟が火災にあう(6月)「日本文徳天皇実録」
- 879年 菊池城院の武器庫の鼓がひとりてに鳴った
「日本三代実録」

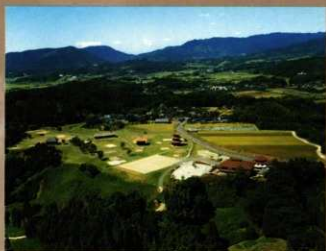
(参考)

- 875年 カラスの群れが菊池郡倉舎の葺草をかみ抜く
「日本三代実録」

鞠智城は、大宰府の南約60km、有明海に注ぐ菊池川の河口から約30km近くさかのぼった内陸部にあり、一見、唐・新羅の侵攻ルート上に無いように見えますが、古代の交通の要衝地にあり、有明海沿岸や九州南部に上陸した敵を迎え撃つには最適な場所にあります。

このため、武器や兵糧、兵士を前線に送り込む後方支援基地としての役割とともに、南からの侵攻に備えた軍事拠点であったと考えられています。

絶妙の地形の上に、古代百済の技術をもって築かれた堅城



鞠 智城は、城の中心となる区域だけで周囲約3.5km、面積約55haであり、その外側の城域もあわせると約120haにもおよぶ広大な城です。他の古代山城が険しい山の上にあるのとは異なり、平野から連なる台地上にあります。周囲を切り立った崖に囲まれ、阿蘇の外輪山から菊池川沿いまでを見渡せる絶妙の地形が選ばれています。



城 内では、これまでに3つの門跡が見つかっています。

城の外周部では、尾根の上にさらに土塁を築いて敵の侵入を防いでいます。この土塁は、土砂を突き固めて盛り上げる版築という手法でつくられています。

城の外周は崖地形を活かした土塁線で囲い、城の中には尾根や谷を包み込み、谷の出口には水門と呼ばれる石垣造りの門を置く構造は、当時の朝鮮半島の技術と共通するところが多く、亡命百済人が築城に関わったと考えられています。

▼ 版築土塁の出土状況



各地の古代山城

古 代山城が築かれた時代、九州地方は政府機関である大宰府によって統括されていました。九州では、この大宰府を中心に古代山城が計画的に築かれ、烽火を使って互いに連絡を取りあいながら、戦いに備えていたと考えられています。



大野城 (福岡県)

大宰府のすぐ北側にあり、博多湾を一望の下にする。山裾の山城とあわせ、大宰府防衛のための大拠点。



基肆城 (福岡県・佐賀県境)

大宰府の南8kmのところであり、筑後(福岡県南部)や肥前(佐賀県・長崎県)方面からの防衛拠点。



金田城 (長崎県)

対馬中部の湾に突き出る山を取り巻くように築かれており、対唐・新羅の最前線に位置している。

古人の息吹を伝える出土品

百済系菩薩立像

(くだらけいぼさつりゅうぞう)

2008年10月、鞠智城の貯水池跡から、銅造の百済系菩薩立像くだらけいぼさつりゅうぞうがほぼ完全な状態で出土しました。

大きさは13cm足らずの小さなもので、足の下に台座に差し込むための柄へがあることから、小さな厨子ずしなどに入れ携帯して崇拝した念持仏ねんじぶつだと考えられます。

仏像が持っている容器は舍利容器であり、百済の王興寺で出土した舍利莊嚴具の舍利容器に類似しており、姿形の特徴から、7世紀半ばから後半の百済系菩薩立像と考えられ、鞠智城の築城に携わった身分の高い百済人が持ち込んだ可能性が指摘されています。



木簡

鞠智城では、古代山城で唯一、木簡もくかんが出土しています。

貯水池跡から出土した木簡には「秦人忍しんじん□五斗」と書かれ、秦人(渡来系の人々)の忍という人物が米五斗を納税したことを表す荷札と考えられています。



木製品

兵士たちは、自給自足の生活をしていました。貯水池跡から発掘された木製の鋤すきは土を起こす道具で、コナラ材を加工して作られています。ほかにも鋤の柄、斧の柄などの木製品が見つかっています。



炭化した米

火災にあった米倉の周りからは、焼けて炭すすになった初はつが大量に見つかります。地元では古くから「この地に住んでいた米原長者が、天罰を受けて家屋敷を焼き尽くされた」という伝説があります。



瓦

建物の屋根に用いられた平瓦ひらがわ、丸瓦まるがわ、軒丸瓦のきまるがわが出土しています。軒先を飾る軒丸瓦は、蓮の花を表現した百済の様式を受け継ぐ瓦です。

4 堀切門跡



1 灰塚展望所



6 温故創生之碑

7 温故創生館



2 南側土塁

城の南側の防衛ラインです。

3 池の尾門跡

城の西門にあたります。

4 堀切門跡 (門礎石)

城の南に位置し、正門と考えられる門の礎石です。

5 深迫門跡

城の東門にあたります。

6 温故創生之碑

鞠智城のシンボル。「温故」は調査研究、「創生」は整備による利活用を意味します。

7 温故創生館

鞠智城の解説・展示のための施設です。



8 宮野礎石



9 板倉



1 灰塚展望所

不動岩、阿蘇外輪山など360度の景色が楽しめます。「灰塚」という地名から、かつてのろし台が置かれた可能性があります。

8 宮野礎石

当時の礎石をそのままに展示しています。

9 板倉

武器を保管した倉庫です。

10 兵舎

兵士たちの生活の場です。

11 米倉

校倉造りの食糧庫です。

12 八角形鼓楼

三層目に太鼓を置き、連絡や時間を知らせたものです。

13 西側土塁

城の西側の防衛ラインです。

14 貯水池跡

木簡や建築用材、百済系菩薩立像など、貴重な遺物が数多く見つかっています。



10 兵舎



11 米倉



12 八角形鼓楼

鞠智城の体験



遠足での来訪



赤米(古代米)の刈りとり体験



赤く色づく稲穂



鼓楼への登城体験(春・秋)



勾玉づくり体験(イベント時)



出土遺物の案内解説

発掘された鞠智城

鞠智城では、1967年以来、40年以上にわたって発掘調査がおこなわれており、国内初の遺構が数多く見つかっています。

公園内では復元建物や遺構表示などの様々な形で発掘調査の成果を公開しています。



二カ所で見つかった八角形建物跡は、古代山城では初めての発見。二聖山城(韓国・京畿道河南市)でもよく似た建物跡が見つかっています。



門跡では、門の扉軸を据え付けた穴のある礎石(土台にする石)が見つかっています。



池の中央近くに位置する貯木場跡からは、建築用の木材や土壁に使う細木などが見つかりました。



これまでに72棟の建物跡が見つかっています。城が運営された約200年の間に、建て替えを繰り返しながら、様々な施設が建てられたことが窺えます。

この電子書籍は、歴史公園鞠智城 東アジアを見つめた古代日本「鞠智城」国営公園化を目指して を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：歴史公園鞠智城

東アジアを見つめた古代日本「鞠智城」国営公園化を目指して

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2024 年 7 月 20 日